

南アフリカ 生食用ブドウ輸出は12%増加して回復の見込み

FreshFruitProtal 2023年10月2日

南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)は9月29日、2023-24年度シーズンに関する第1回推計の中で、生食用ブドウの輸出量が増加すると発表した。同協会は、2023-24年度の輸出検査数量が、2022-23年度の検査実績と比較して約12%増加すると予想している。

これは、過去3年間の平均と一致する数量である。同協会は、全国の推定検査数量は7,300万箱と予想され、推定値の上限は約7,520万箱、下限は約7,080万箱であるとしている。一箱は、4.5キログラム(9.9ポンド)である。

前のシーズンに季節外れの気象パターンで減収したオレンジ川流域の検査数量は、中期的な平均値に近い数量に戻ると予想される。すなわち、昨シーズンの検査数量1,640万箱に対し、今シーズンは約2,110万箱と予想される。

北部地域では、昨シーズンの輸出検査数量560万箱に対し、約590万箱を見込んでいる。

前シーズンに気象パターンの影響が少なかったベルク川とヘックス川の流域では、予想される数量は過去に見られたものとかかなり近い。ベルク川流域では、昨シーズンの輸出検査数量1,900万箱に対して1,910万箱と推定され、ヘックス川流域では、昨シーズンの輸出検査数量2,120万箱に対して、2,350万箱と予想される。

オリファンツ川流域では、前シーズンの輸出検査数量300万箱に対して、340万箱と見込まれている。

昨冬は、休眠サイクルにおいて有利な低温が特徴であった。同協会はまた、昨シーズンの収穫期には、気象パターンの変化に起因する季節外れの降雨が複数の地域で見られたとしている。

2023-24年度シーズンの初期の兆候は、新しい品種の出荷が始まることに支えられて、各地域で十分な量が生産されることを示している。

南アフリカの生食用ブドウ産業における品種の統一により、生産者らが世界の市場動向に合わせ、求められる品種を市場に供給できるようになった。最新のブドウに関する悉皆調査を踏まえると、一部の地域で種無し白ブドウの増加傾向が続くものと予想される。

生産者らは、農場内とコールドチェーンの両方において、引き続き品質を重視しており、世界中の小売業者にとって好ましい輸出国としての南アフリカの地位を維持することに努めていると同協会は説明する。

出荷量の最初の見通しは、複数の要因に基づく合理的な推計を示している。数値は必要に応じて改訂されることがある。